

令和3年度第2回(第36期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和3年10月7日(木)午後2時30分～午後4時
- 2 開催場所 サラ音楽ホール 多目的室3号室
- 3 出席状況
- | | |
|------|---|
| 委員 | 伊藤豪委員、晝馬るみ委員、河合亮子委員、
高木一徳委員、中村朋子委員、鈴木一夫委員、
屋名池倫子委員、白岩伸也委員、
近藤潤子委員 (Zoom参加) |
| 事務局 | 中村文化振興担当部長、
久米生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長、
遠部指導主事、井ノ口指導主事 |
| 欠席委員 | 松本孝久委員 |
- 4 傍聴者 1人(一般:0人、記者:1人)
- 5 議事内容
- 生涯学習講師養成講座について
意見交換「講座を視察してみて」
 - 第1回社会教育委員会が出された主な意見への対応と今後の課題について
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
遠部佳代子、今井千晶
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

- 開会
- 講座視察
生涯学習人財育成事業
第5回生涯学習講師養成講座(スキルアップ講座)
「自分の講座の魅力を伝えよう～魅力ある広報の仕方～」
- 議事
(1) 生涯学習講師養成講座について 意見交換「講座を視察してみて」

(伊藤豪委員長)

ただ今ご覧になった講座について、委員の皆様の忌憚のないご感想やご意見を伺いたい。

(高木一徳委員)

自分の講座を受講してくれる人に、講座の魅力を伝えるため、この講座は重要であると思う。楽しそうな雰囲気の中にもやる気が満ちあふれ、各自が実際に講師として開催する講座の実現に向けて取り組んでいる姿が多く見られた。この講座は何回かに分けて開催されているが、講座の内容についてどのように企画しているか、何回受講の必要があるか詳しく教えて欲しい。

(事務局)

今年度7回の講座を企画し、各講座内容は委託先と相談して決めた。提供する講座を分野ごとに分類し、登録講師がたくさんいる分野の専門的な知識や技能を高めることのできる講座「専門ミーティング」と、全ての講師にとって必要なスキルを学ぶことができる講座「スキルアップ講座」を企画した。今年度は初めての取り組みであり、講座内容についてのアドバイスをいただきたい。

(高木一徳委員)

生涯学習講師養成講座は講師にとって力強いバックアップとなっている。今回指導してくれていた講師に、今後も困った時に気軽にフォローしてもらえると良いと思う。

(中村朋子委員)

シリーズで考えられた内容が素晴らしいと思う。講師をやりたいと思ってもまだ講座を開催できていない人や、開催のお知らせが十分に発信できていない人にとって、講座開催に向けて準備する良い機会となるし、講師としての力も付けることができる。受講生同士のつながりも生まれ、グループでの講座の企画ができるようになったり、お互いの情報を聞くことで刺激になったりする。

(鈴木一夫委員)

絵や文章のセンス・感性と関係なく、ポイントをしっかりと押さえた指導をすると、チラシのできがどんどん良くなっていくことを、視察した時間の中だけでも感じた。たくさん講師がいて、それぞれ教えたことが違うが、講座を開きたいと思っている人が、今後受講を希望する人たちとうまく出会えると良いと思う。

(伊藤豪委員長)

協働センターや学校支援コーディネーターが様々な人財をつなげてくれている。活用されずにいた生涯学習講師登録名簿にメスを入れ、洗い直し、登録講師が活躍していくことができる条件を整えた行政サイドの取り組みがよい。

(屋名池倫子委員)

個人で講師登録し、一人で自分の好きな分野だけを深めると、視点が独りよがりになりがちである。他の人たちからの視点は重要であり、様々な分野の講師が集まり、視点を補い合える講座が今後もあると良い。個人的なことだが、今日の午前中にコーチングを学んだり、今夏に市民協働センターが主催するオンライン(Zoom)会議の仕方を学ぶ講座に参加して学んだりしたが、どちらも大変良かった。生涯学習講師養成講座でも今年度「オンライン講座の開催の仕方」を学ぶ講座を実施しているが、これについては来年度もぜひ継続してほしい。

(伊藤豪委員長)

鈴木委員から「講師は教えたいたものが様々である」という発言があったが、講師

が何を教えたいのか、コーディネーターがしっかりと理解していなければ、講師を必要とする人たちにつなげていけない。コーディネーターのコーディネート力アップも大事であると考える。

(河合亮子委員)

講師1人で企画からチラシ作りまで行うのは大変だが、自分の得意分野を生かせるよう2～3人で行えば、楽しみながらレベルアップが図れる上、様々な相乗効果が生まれるのではないかと。

(晝馬るみ委員)

受講者一人ひとり、自分の講座の魅力を伝えたいという思いがこもっていた。今回の講座は、講師の皆さんのニーズに合っていた。講座に参加した講師同士が交流して、意見交換し、学びを深め合える時間を設定すると更によいのではないかと。

(白岩伸也委員)

志も能力も高い方が集まっている。「養成」というと計画的・組織的にカリキュラムを組んで行うというイメージだが、本講座の目的からすると本来の「養成」という計画的・組織的という意味とは少し異なると感じた。もう少し違う言葉で表現できるといいと感じる。

(事務局)

生涯学習講師養成講座にはスキルアップ講座と専門ミーティングの2つがある。専門ミーティングでは交流の場を設けている。具体的には、講師として必要な知識・ノウハウを誰でも学べる講座と、テーマを設定し深掘して学ぶ専門の講座となっている。

「養成」に代わるいい言葉があれば、ぜひご教授いただきたい。

(鈴木一夫委員)

社会福祉の分野では、養成という教えが上から下へという感じであったため、それが嫌だった。セラピーも治療する人とされる人の関係、上下の関係である。セッションのような言葉を選ぶ必要がある。

(伊藤豪委員長)

「養成」は抵抗のある言葉かもしれない。適切な言葉が他にあるのではないかと。今の時代は、色々な力を持っている人があふれている。一人の先生が全てを指導することは不可能であるため、専門的な知識を持つ人たちの力を活用していいとよい。コミュニティ・スクールにおいても、専門的なことは、その分野の専門の人に指導してもらうという方向である。

(2) 第1回社会教育委員会が出された主な意見への対応と今後の課題について

■事務局より第1回社会教育委員会が出された主な意見への対応と今後の課題について説明

(伊藤豪委員長)

生涯学習講師登録データの仕組みや活用方法、各協働センターが取り組む世代間交流について、教育委員会は情報を把握しているか。

(事務局)

必要な時に必要なタイミングで教育委員会へは情報共有している。

(伊藤豪委員長)

各学校は、各協働センター・ふれあいセンターが生涯学習講師の情報を持っていること、相談すれば活用できることを知っているか。このすばらしい取り組みを学

校側がもっと知って、活用してほしい。

(高木一徳委員)

もっと気軽に講師名簿を学校で検索し活用できると良いと思う。検索できる人が限定されているのは残念。

(伊藤豪委員長)

学校で、協働センターを通さずに直接検索することはできないのか。

(事務局)

先生たちの負担を減らすためにも、先生方が検索をするのではなく、各学校の学校支援コーディネーターが協働センターとの連携を進める中で活用してもらいたいと考えている。

全学校への情報配信システム（ミライム）を使って、今年度当初、各学校にも情報を提供し、各学校から学校支援コーディネーターに生涯学習講師データ検索システムについて紹介してもらっている。

(晝馬るみ委員)

コミュニティ・スクールは、早いところでは3年前から始まっているが、今年度より始まったばかりのところもあり、時間差がある。うまく活用できれば学校と地域の壁が低くなり、地域の資源を活用して子供たちを育むことができるいい環境ができると思う。

(近藤潤子委員)

講座では、皆さんが熱心に学んでいることが画面を通して感じられた。自らが学び、そしてその学んだことを教える立場になっていく、これはまさに生涯学習といえる。講師にとって、この生涯学習養成講座は生きがいを感じられる講座であると思う。

6 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・第63回全国社会教育研究大会石川大会について
- ・第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会について
- ・生涯学習ボランティア養成講座（11月6日（土）開催予定）について
- ・次回開催予定

浜松市と大学の連携事業 成果報告会 令和4年2月中旬～下旬

第3回社会教育委員会 令和4年3月予定

7 閉会